

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月20日			
平成15年度	事業コード	31520	電話	042-769-8239
担当部課名	経済部	農政	課	農業振興 班
事務事業名	環境保全型農業導入支援事業			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	立地特性を生かした産業の振興を目指します	事業開始年度
基本施策名	第5節	都市農業の振興	12年度
施策名	第2施策	特色ある都市農業の推進	

2 実施根拠及び関連法令等

農業生産総合対策事業実施要領（平成12年4月1日付け農林水産事務次官依命通知）
生産振興総合対策事業実施要領（平成14年4月1日付け農林水産事務次官依命通知）

3 事務の区分

4 経費の区分

5 事務事業の分類

6 受益者負担

自治事務	その他の経費	国庫補助事業	あり
------	--------	--------	----

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか		(2)対象(誰、何)
<p>自然環境に調和した農業体系確立のため、生産者に栽培方法の市道を進めるとともに、環境にやさしい資材導入を円滑に進めるため、新資材の試験的導入を図る。 平成12年度は環境保全型農業推進方針の策定 平成13年度は環境保全型農業栽培指針を作成し展示ほの設置</p>		農家及び市農協
		対象数
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容		
<p>環境保全型農業実証展示ほの設置。 露地野菜でハスモンヨトウの大量誘殺のため、フェロモントラップの設置90箇所(85ha) キャベツでコナガの交信攪乱を誘発する、性フェロモン剤(コナガコンプラス)の設置(1.8ha) リンゴでキンモンホソガの交信攪乱を誘発する、性フェロモン剤(コンフューザーA)の設置(0.25ha) ナシでシンクイムシ類の交信攪乱を誘発する、性フェロモン剤(コンフューザーP)の設置(0.3ha) 果樹栽培における除草剤の代わりとしてナギナタガヤの導入(1.2ha) 受益者負担 2分の1以上</p>		
(4)個別計画の概要		概要
計画名	環境保全型農業推進方針	化学合成農薬及び化学肥料の使用量を現行栽培より3割削減をする。
計画年次	12年度～22年度	

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
成果指標								
活動指標								

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	700	1,625	394	700	
	人員・時間数	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	
	人件費	839	839	839	839	
	その他経費					
	合計	1,539	2,464	1,233	1,539	0
	特定財源	350	1,250	394	700	0
	対象数					
	対象の単位あたり経費	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	資材を設置している農家で徐々に化学合成農薬の散布量を減らしている。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 食の安全・安心が言われている今、化学合成農薬の使用量削減は必要である。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		
		説明	資材導入の効果を聞き個人で導入する農家が出てきた。
(4)効率性 評価 B ▼	A:優れている	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 現在は、試験段階であり、調査に手間をかけている。また、資材が量産されていないため、価格が高い。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	導入試験であり、5割の負担は適正であると考える。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明: 導入結果が良好なので、資材が安くなれば、多くの農家に拡大すると考える。	手段	導入結果を各農家に周知し、資材の負担が軽くなれば、削減可能。
		削減額	千円

11 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明 環境に配慮した生産資材を試験的に導入している状況であるが、効果などは、すでに近隣の農家に広まりつつあるため、有効な事業と考えている。資材も単一の害虫だけでなく、複数の害虫に対して効果のある物も開発されているので、より良い防除体制を検証していく必要を感じている。
<input type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--